

2023年度「CSR委員会 全国一斉ZOOMミーティング」議事メモ

【日時】 2023年9月6日(水) 15:00～17:00

【会場】 WEB会議

【出席者】 *大城委員長

<敬称略>

北海道	*池田	北海道	菅原	北海道	中村	青森	比内
岩手	佐藤	秋田	*近藤	やまがた	森	福島	*酒井
新潟	*鈴木	長野	桐島	群馬	石田	茨城	*河合
埼玉	澁田	千葉	東	神奈川	*吉野	山梨	大久保
東京	*小野	東京	高橋	静岡	稲穂	愛知	浅井
岐阜	磯谷	三重	石川	三重	内山	富山	*三上
石川	宮野	福井	宮下	滋賀	田谷	京都	坪倉
奈良	*森井	大阪	大西	兵庫	壺内	和歌山	*西川
和歌山	山岡	岡山	*山田	岡山	篠崎	鳥取	齋藤
島根	阿部	広島	末廣	広島	染川	山口	*田坂
徳島	*杉友	香川	石川	愛媛	葛川	高知	尾崎
福岡	鶴田	大分	*三浦	佐賀	中原	長崎	泉
宮崎	川崎	熊本	*植村	鹿児島	小川	沖縄	井上

*=CSR委員会メンバー

【オブザーブ】 小田島会長、横山副会長、粕谷室長（代理店経営サポートデスク）

【事務局】 金澤専務理事、大谷部長

【司会】 池田副委員長、山田副委員長 【議事メモ】 事務局

議 事

1. 小田島会長挨拶

- ・日頃より代協活動に取り組みいただき、また猛暑の中、各地でぼうさい探検隊マップ作成の推進感謝申し上げるとともに応援している。
- ・CSR委員会の皆さまも本日の全国一斉ZOOMミーティング開催の準備お疲れ様です。良い学び、意見交換によって、新たな気付き、そして各県横のつながり強化など充実した時間になるようお願いする。
- ・防災の日の前後で地域特性に合わせ、国民の防災意識を高めるための様々な番組が放映されていたが、地震だけでなく豪雨、台風など自然災害の恐ろしさと共に、日頃の備え、防災・減災の重要性について継続的な声かけを行うことは我々代理店の役割である。自社の仕事が忙しい中で難儀なことだとは思いますが、地域の中で仲間の代理店と協力し、CSR活動などを通じて街の皆さんと交流し、アプローチすることは大変有意義なことだと思うので、引き続き頑張ってください。
- ・さて、皆さまも気にされていると思うのでビックモーター、そしてカルテル問題について少し触れたいと思う。こんな事が起きるのかと、同じ保険商品を販売し事故

対応を行っている我々代理店は耳を疑い、また不安になるニュースが連日報道されている。お客さまが持つ保険に対する思い、安心感や頼りになる存在といった長い年月をかけて積み重ねてきたイメージが変わってしまう恐ろしさを感じると同時に心配している。現状、各保険会社に対して、今後の改善と再発防止に向けた取組を強く要望するとともに適時適切な情報開示を求めているので、引き続き皆さまとの情報共有に努めていきたい。

- ・損害保険代理業の倫理観、私たちの使命について改めて皆さまと共に考える機会になったと思う。日本代協の倫理綱領には「正会員に加盟するすべての損害保険代理店並びにその募集人は、社会が損害保険代理業に課する使命、責任、義務に深い自覚を持ち、社会の信頼にこたえ、その繁栄に資するため、常に研鑽につとめる」とある。昨今の事例を通じて、うわべだけではない、顧客本位の業務運営を軸とした自社の「自立と自律」の PDCA サイクル、内部統制を機能させることの重要性が浮き彫りとなった。
- ・保険販売の最前線で仕事をする我々にとって、募集品質の向上、知識のアップデート、情報提供は損害保険の役割・有益性をお客さまが深めていただくことに繋がると思う。代理店の関りは必要であり、私たち代協会員が実務や CSR 活動などを通じ地域で輝き、活躍することによって「保険を選ぶ前に代理店を選ぶ、という考え方。」を浸透させることが出来るのだと信じている。
- ・CSR 委員の皆さんには代理店の価値を伝える尊い役割がある。更なる一步を踏み出すために共に取り組んでいこう。

2. 2023 年度 CSR 委員会の取組みについて

事前配布資料「CSR 委員会 全国一斉 Zoom ミーティング」に基づき、大城委員長が CSR 委員の紹介、全国一斉 Zoom ミーティングの目的、CSR 委員会の取組みについて説明を行った(質疑応答については会議終了後のアンケートに記載いただくよう依頼)。

3. SDGs 勉強会

事前配布資料「保険代理店と SDGs 経営」に基づき、粕谷室長から説明があった。

4. 好事例取組み発表

ぼうさい探検隊の取組みについての好事例取組みの共有があった。

小野委員(東京代協)

昨年実施した、ぼうさい探検隊の取組について発表した。

- ・第 19 回マップコンクールにおいて防災担当大臣賞を受賞し NHK 出演や朝日新聞からの取材を受けた。
- ・子供たちは、はじめ何から手をつけていいのかわからず、ただ街を歩くだけだったが、ハザードマップを参考にしながら地図を作成していった。
- ・マップを作成した子供だけでなく、このマップを見た他の子どもたちにとっても大きな気付きとなったのではないか。
- ・このマップが地域防災計画の見直しに役立つことを祈念している。

壺内さん（兵庫県代協 副会長）

昨年、兵庫で開催された「ぼうさいこくたい2022」への出展について報告があった。

- ・ ぼうさいこくたいへの参加は、兵庫県代協の理事からの情報で、「損害保険を生業にしている以上、何らかの形で参加できないか」との議論が理事会で行われ、ぼうさい探検隊のブースを出展することとなった。
- ・ 出展するにあたっては、損保協会からの協力をいただきツール類を提供いただいた。
- ・ 前日にトラックで資材を運び込み、設営。2日間で約1,000名がブースを訪れた。来訪者にはその場でマップコンクールへの参加アンケートを行い次年度取組希望者が35名に達した。
- ・ 今年は神奈川県で開催されるので、兵庫から手伝いに行くことを検討している。
- ・ 毎年開催地は変わるので、うまく引継ぎができれば防災イベントのトップである「ぼうさいこくたい」へ毎年参加し、ぼうさい探検隊の知名度も上がり、本来の目的である子供のための防災教育に代協が大きく貢献できるのではないだろうか。

5. グループディスカッション（30分間）〈敬称略〉

テーマ「ぼうさい探検隊 マップコンクール応募促進について」

「ぼうさい探検隊 ノウハウ・開催の効果について」

Aグループ リーダー：池田（北海道）

メンバー：三上（富山）、比内（青森）、東（千葉）、坪倉（京都）、尾崎（高知）、石川（三重）

Bグループ リーダー：近藤（秋田）

メンバー：森井（奈良）、佐藤（岩手）、大久保（山梨）、鶴田（福岡）、篠崎（岡山）、高橋（東京）

Cグループ リーダー：酒井（福島）

メンバー：西川（和歌山）、稲穂（静岡）、壺内（兵庫）、中原（佐賀）、染川（広島）

Dグループ リーダー：鈴木（新潟）

メンバー：山田（岡山）、森（やまがた）、浅井（愛知）、齋藤（鳥取）、泉（長崎）、菅原（北海道）

Eグループ リーダー：田坂（山口）

メンバー：河合（茨城）、桐島（長野）、磯谷（岐阜）、阿部（島根）、川崎（宮崎）、中村（北海道）

Fグループ リーダー：柚友（徳島）

メンバー：吉野（神奈川）、石田（群馬）、宮野（石川）、末廣（広島）、小川（鹿児島）

Gグループ リーダー：三浦（大分）

メンバー：小野（東京）、宮下（福井）、石川（香川）、井上（沖縄）

Hグループ リーダー：植村（熊本）

メンバー：内山（三重）、澁田（埼玉）、田谷（滋賀）、葛川（愛媛）

山岡（和歌山）

※グループディスカッションの討議内容についてはディスカッションシート参照

6. まとめ（大城委員長）

- ・今回のディスカッションはブロックを超えてグループ分けをしたが、初めて知った事例やツールがあったのではないか。
- ・地域の枠を超えて、良い事例が共有されることで、日本代協全体としても、より良い取り組みが行えるのだと思うので、今回をきっかけにブロックや県の枠を超えて交流を持ちながら前に進めていきたいので協力をお願いします。

7. 横山副会長所感

- ・日頃より代協活動への多大なるご尽力、ご協力を賜り、この場を借りて御礼申し上げます。また、本日はお忙しい中お集まりいただき、全国各地で活躍される CSR 委員の皆さまと、一体感を得られる絶好の機会となったのではないだろうか。
- ・損害保険業界を取り巻く環境は、特に近年において目まぐるしく変化していることは申すまでもない。世の中のリスクは多岐に渡っており、そのリスクの移転として保険は存在するが、それはあくまでも最終手段であり、本来はリスクを回避することでその損害を起ささない、あるいは最小限に食いとどめることが大切なのではないかと考えている。それを代協会員全員の知恵と力を結集して、防災・減災・縮災・防犯の意識を高める社会を築いていくことが CSR 委員会の使命であり存在意義である。
- ・本日配布の資料（P8）にもあるが、CSR 委員会の目的は「日本代協の組織として社会的責任を果たし、併せて各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心・安全に関するリスクアドバイザーとして認知され、その存在価値を高めていくこと」である。冒頭に大城委員長から説明があったが、その具体的な行動は、多岐に渡っている。
- ・代理店経営サポートデスク粕谷室長から「代理店と SDGs 経営」と題して、ご講演いただいたが、その中で注目したのは「SDGs で代理店経営を Re デザイン！」というパートである。SDGs の学習は 10 代の小・中・高生が学んでおり、既に実践活動カリキュラムとして活動している大学生は 10 年後には全員 20 代となり、保険代理店にとっての新しいマーケット層にもなってくる。Z 世代の台頭「誰も取り残さない」という理念の中で「代理店ビジネスにおける SDGs とは何か」を真剣に考えていくべき時期に来ているのではないか。まだまだ SDGs の取組は遅れていると思うが、SDGs の取組を地域密着の代理店経営の強みにするためのノウハウを分かりやすく説明いただいた。
- ・取組事例発表として、東京代協の小野委員長と兵庫県代協の壺内副会長からそれぞれの取組をご紹介いただいた。小野委員長からは、昨年度のマップコンクールにおいて防災担当大臣賞を受賞した蓮田安心探検隊の取組についてご報告いただいた。小学校 4 年生のお孫さんとともに取組まれ、熱意が感じられる内容であった。また、壺内副会長からは、昨年兵庫県で開催された「ぼうさいこくたい 2022」への出展状

況を報告いただき、ぼうさいこくたいへの入念な準備、取組が伝わった。今年度9月17日(日)、18日(月・祝)に横浜国立大学で開催される「ぼうさいこくたい2023」への関心と理解も深まったのではないだろうか。それぞれの取組が熱心に行われた状況が、よくわかった。

- ・そして、全体のグループディスカッションでは、「ぼうさい探検隊」の応募促進やノウハウ、開催効果について皆さんで意見を交わしていただき、それぞれが刺激し合うことが出来たかと思う。
- ・本日は、たいへん中身の濃い全国会議であったと思う。全国の委員長の皆さまと意見交換することで、好事例や抱える課題を共有し、それぞれの代協での活動への一助となることを期待している。「ぼうさい探検隊」のおうぼ締め切りまで2か月を切っており、それぞれの活動にも拍車がかかる時期かと思うので、是非、本日の会議の内容を各代協へ持ち帰っていただき、力強い推進をお願いする。
- ・最後になるが、全国一斉ミーティング開催準備にご尽力いただいた大城委員長はじめCSR委員の皆さまと日本代協事務局の皆さまに、心から感謝申し上げます。長時間にわたり、お疲れ様でした。

以 上

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名： A

書記： 三上 茂

<p>諮問事項</p>	<p>日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討（地震保険、子ども110番、無保険車追放） ③防災減災の具体的な取り組みの定着とさらなる推進（他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等）</p>
<p>ディスカッションの目的</p>	<p>ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。</p>

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？
 また、実際に行っている取組や工夫している点、困っている点があれば教えてください。

三重県（石川さん）今年の4月に防災マップ教室を開催。海拔2メートル地区で5組の親子が参加。逃げる訓練をしている途中に危険箇所があり、石畳の回収につながった。
 高知県（尾崎さん）毎年同じ団体に声掛けしている。しかし、新規の団体が増えない。理事会でも声掛けしているが、新規が増えない。
 京都府（坪倉さん）理事の子供さん、お孫さん中心に声掛けしている。しかし、少なくなってきたので、今年は地域の消防団に声掛けして、新規開拓している。
 千葉県（東さん）ぼうさい探検隊推進は、支部で温度差があると感じる。学校と関係が深いと推進しやすい。地域と学校が連携してマップを作成してみることが大切と感じる。今年、地域の小学校に声掛けして、小学校3クラス9作品提出予定。台風でゴルフ場のネットが倒れた経験もあるので、これからも推進していきたい。
 青森県（比内さん）歴代のCSR委員が開拓した団体を継続してほしい。児童クラブや子供会ですが、新規開拓ができていない。各支部にある教育委員会に働きかけをしている。
 富山県（三上）今年の損保協会会長はあいおいニッセイ同和損保保険なので、あいおいニッセイ同和損保全体でぼうさい探検隊マップコンクールを推進している。富山損保協会会長から損保職員に声掛けして、3団体応募につながっている。各県の目標も決まっているので、是非損保職員に声掛けをお願いしたい。また、メディアとのコラボも考えていきたい。防災士の資格を持ったアナウンサーも多いので、チラシをもって紹介していきたい。
 北海道（池田）目標は5団体以上応募提出だが、北海道には9支部あり、小さな支部で20会員以下の支部もある。でも去年は15団体応募提出を達成し、全国で1番の数となった。小学校には損害保険協会から案内はあるが、なかなか取り組んでいただけない。小学校への声掛けから取組み時間があるだろうと思い学童への声掛けもしているが、少人数の運営でやっていただけない。会員の方に声掛けして、紙での応募が難しい場合、タブレットで応募を呼びかけている。募集の苦労はCSRに携わった方しか言えない。

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先（行政や自治会、学校、子ども園等）を教えてください。またマップ作成後に危険箇所の改善事例があれば教えてください。

三重県 4月の防災マップ教室で危険箇所を発見し、石畳の回収につながった。
 富山県 2018年応募していただいた滑川市立北加積小学校の作品は、つなみマップを作成され、佳作を受賞。地震による津波が数分で押し寄せる地区なので、作成したぼうさいマップは地域の公民館に掲載して、地域の皆さんに見て頂いている。
 北海道（全国の事例から）ぼうさい探検隊に参加した方が中学生となり、2011年東日本大震災の時に、小さな子供さんと手をつないで逃げたり、大阪の地震の際塀が倒れて亡くなった子供さんがいて、塀から金網に回収している事例、危険箇所ミラーが設置された事例等、ぼうさい探検隊の活動が自治体を動かしている事例も多いので、推進して欲しい。

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。

※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名： B

書記： 森井

<p>諮問事項</p>	<p>日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討（地震保険、子ども110番、無保険車追放） ③防災減災の具体的な取り組みの定着とさらなる推進（他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等）</p>
<p>ディスカッションの目的</p>	<p>ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。</p>

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？
 また、実際に行っている取組や工夫している点、困っている点があれば教えてください。

- ・(岡山) 青年会議所主催のぼうさいパークのイベントにブース出展し参加。児童クラブに案内文書送付予定。
- ・(山梨) 前年参加頂いたYMCAにて好評頂き、他2箇所のYMCAにて今年度実施予定
- ・(福岡) 小学校PTA行事にて1団体の十数マップ実施予定。
- ・(東京) 議員、学校に情宣活動。3月と4月にイベントにてブースを出展予定。
- ・(岩手) 警察の防災地区担当や子供会に案内。
- ・(秋田) 過去に参加頂いた小学校に再度案内。
- ・(奈良) 斑鳩町役場職員、県会議員、その子供2人と友達5人にて実施。損保協会会長のあいおい奈良支店長に案内。目標数字が降りてきている関係でやる気あり。

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先（行政や自治会、学校、子ども園等）を教えてください。またマップ作成後に危険個所の改善事例があれば教えてください。

- ・(岡山) まずグループワークにてテーマ決定と範囲の決定が大事。子供は他に興味を持ち集中を欠いてしまうため。参加された親に地元の方がおられ、町の歴史などを聞け子供たちは興味を持っていた。
- ・(東京) 小学校にDMを送付しようと考えたが、損保協会が送付していると知り断念。学校にこちらから案内した際に損保協会からの案内を見たことがあるなどの話が出たことはありますか？と皆さんに質問あり。
- ・(奈良) 溝の石蓋が破損している箇所があり、斑鳩町役場職員にてどこの管轄になるか調べておきますとなった。

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。

※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名： C

書記： 西川秀俊

諮問事項	日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討（地震保険、子ども110番、無保険車追放） ③防災減災の具体的取り組みの定着とさらなる推進（他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等）
ディスカッションの目的	ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？また、実際に行っている取組や工夫している点、困っている点があれば教えてください。

【実際行っている取組】

- ・（身内、家族、お客様、役員、従業員）の身近な子供から最低限の目標件数をする。
- ・損保会社に協力依頼する。
- ・地域のスポーツ少年団の世話役をしている。（ソフトボール）3小学校が集まるので、提出できる仕組みを作る。
- ・学校、保護者を巻き込む。
- ・タブレットを活用（半日でしあげる）。
- ・県外の親戚の子供に取組依頼。

【工夫】

- ・タブレットを使用、マップ印刷して額縁に入れ子供に渡す（先生にも持参）。
- ・初めて参加する子供達には、安全なもの、危険なものなどを写真を活用して先にヒントを出してあげる。
- ・NPO法人、子供会、自治会、消防団、婦人会に応募依頼。

【困っている点】

- ・自治会、子供会に話を持っていくが面倒くさいと断られる。
- ・ぼうさいマップの進捗状況を早く知りたい。
- ・地震保険、無保険車追放のチラシ配りはコロナのため断られている。

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先（行政や自治会、学校、子ども園等）を教えてください。またマップ作成後に危険箇所の改善事例があれば教えてください。

- ・実施してもらった子供の親に危険な箇所の話をしている。

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。

※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名： D

書記： 山田真理

諮問事項	日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討（地震保険、子ども110番、無保険車追放） ③防災減災の具体的な取り組みの定着とさらなる推進（他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等）
ディスカッションの目的	ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？
また、実際に行っている取組や工夫している点、困っている点があれば教えてください。

- 新潟：代協の会合等、代理店の集まる場所で案内、周知する。
- 岡山：年2回の代協の新聞広告にぼうさい探検隊枠を作ってもらっている。防災イベント出情宣、学童等にDM送付。
- やまがた：損保協会主催のものだが、損保協会の位置づけがよくわからない。保険会社の社員にやってもらい良さを知らせる。
- 愛知：今年は10件目標で現在7件、今回は内容より参加するという漢字だが、子供より参加した大人が興味を持ち来年もやりたいと言っている。次年度は内容にも力を入れる。
- 鳥取：現在は、理事中心の紹介、今年はあいおい社の支店長が力を入れてくれて校長会などへの紹介を受け、面談予定（次年度につなげる）
- 長崎：4年ほど、同じチームが提出している。学校は行事が決まるのが早いので学童の方が効果ある。
- 北海道：支部を通じ、理事・幹部からの声かけ、児童館を回ったりしている。

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先（行政や自治会、学校、子ども園等）を教えてください。またマップ作成後に危険箇所の改善事例があれば教えてください。

- 良い夏休みの課題ができた。
- 家の周りの危険なところの対処ができた（止水板など）。
- 一緒に回ること危険な場所の認識ができた。
- 消火栓や防火扉など知らないところを知ることができた。

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。

※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名: Eグループ

書記: 河合(茨城代協)

<p>諮問事項</p>	<p>日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討(地震保険、子ども110番、無保険車追放) ③防災減災の具体的な取り組みの定着とさらなる推進(他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等)</p>
<p>ディスカッションの目的</p>	<p>ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。</p>

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？
 また、実際に行っている取組や工夫している点、困っている点があれば教えてください。

(発言者は代協名で表記)

- 島根: 島根県はそんなに災害が多くないので、防災への取り組みはやや少なめ。学校へ働きかけをしているが反応はまちまち。今年はコミュニティーセンター等への声掛けも進めたい。
- 山口: 最近ではやや認知度が上がってきたようで、学校全体でやってみようか、という声も出てきた(今年は無理だけど)。代協内部の認知度がまだまだ低いので、支部会に顔を出して説明会と協力依頼をしている(6支部)。参加者には100円ショップの賞状をあげていて、とても子ども達は喜んでる。
- 岐阜: 以前、会員の同級生が校長先生をやっていた時は9件出たこともある。今はCSR委員会メンバーの孫や身内に声をかけている。今年は参加者にクオカードをプレゼントして、今後の参加意欲の向上に繋げたいと考えている。
- 長野: 学校宛にアプローチしていきたいが、年間で学校行事が組まれているので実施は次年度以降になりがちだと聞いている。先を見通して案内する必要があると感じている。まずは、代協の若手会員や保険会社の社員を頼ると申込に繋がりがやすい。
- 茨城: 昨年は探検隊に理解のある会員の力を借りて声掛けをしてもらったが、今年度は理事会で説明会⇒各支部1件目標で支部長に依頼⇒毎月進捗を報告してもらう、というやり方にした。支部会の活性化とCSR委員会頼みの活動で終わらせたくないため。支部によって温度差はあるものの、少しずつ取組みが進んできた。

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先(行政や自治会、学校、子ども園等)を教えてください。またマップ作成後に危険個所の改善事例があれば教えてください。

(途中で時間切れ終了)

- 茨城: 去年参加いただいた父兄からは「子供たちは楽しんでやっていた。すごいMAPを作ろうとせずに、散歩して地図を作る、ぐらいの簡単な気持ちで始めるといいと思う」との感想をいただいた。
- その他: タブレットは簡単なので馴れば楽にMAPが作れる。

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。

※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名： F

書記： 吉野（神奈川）

<p>諮問事項</p>	<p>日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討（地震保険、子ども110番、無保険車追放） ③防災減災の具体的取り組みの定着とさらなる推進（他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等）</p>
<p>ディスカッションの目的</p>	<p>ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。</p>

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？
また、実際に行っている取組や工夫している点、困っている点があれば教えてください。

時間の都合により①のみになります。（石田→回線不調？により発言無し）

- ・今年度申込団体のうち3件が昨年度からの継続申込。活動に協賛頂ければ毎年の申込に繋がる。こういった団体を増やす事が大事。また申込経路の開拓として保健会社員の方で小学生家族持ちの方へ案内、意外と知らない方が多く今後も継続。（宮野）
- ・ゴルフのチャリティー募金先を地域貢献の立場から各種児童スポーツ団体とし、活動協賛を行う中で一環として探検隊活動を案内した結果今年は児童ラグビー団体からご参加頂いた。地域密着の活動の中で学校関連以外に地域団体へ案内していく。（末廣）
- ・支部内でもぼうさい探検隊を知らない方が多く、まずは自身で体験して貰うといった趣旨で各支部長委員長へ情宣依頼。結果小学生家族の2人に参加頂いた。今後体験者を増やし裾野を広げていく。（吉野）
- ・CSR委員なりたてで未だ不慣れではあるが諸先輩の助けをかりて目標件数を達成していく。（小川）
- ・身内（代協役員）だけではなく、恒常的な活動を目指し学校関係者・PTA・子供会などに探検隊の良い所を情宣していく。今年は校長の集まりに参加し話しをしてきた。営利では無いこういった活動は理解を得やすく今後も継続していく。（柚友）
- イケメン・ジャーニース・リーダー柚友（以下イジリー柚友）
 ぼうさい探検隊活動は非常に意義のある活動であり理解も得やすいが小学生条件もあり恒常的な案内活動には工夫が必要。
 各県で地域団体や保険会社への案内、教師へ直接等の創意工夫をしており日本代協CSR委員会を通じ成功体験を共有していく。

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先（行政や自治会、学校、子ども園等）を教えてください。またマップ作成後に危険個所の改善事例があれば教えてください。

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。
 ※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

「ぼうさい探検隊」取り組み強化 ディスカッションシート

グループ名: Gグループ

書記: 小野和江

<p>諮問事項</p>	<p>日本代協の組織として社会的責任を果たし、各代協会員が地域貢献を行うとともに、地域の安心安全に関するリスクアドバイザーと認知され存在価値を高めていく観点から以下の3点を行う。 ①素幼性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進 ②継続活動の情宣効果向上に向けた検討(地震保険、子ども110番、無保険車追放) ③防災減災の具体的な取り組みの定着とさらなる推進(他業界団体とのコラボレーションの模索、SDGsの取り組みに向けた検討、等)</p>
<p>ディスカッションの目的</p>	<p>ぼうさい探検隊マップ作成は防災・減災の取り組み、代協の存在価値の認知に直結するものである。応募促進の阻害要因の洗い出し、障壁の解消し開催のノウハウを共有します。また、当取組の周知方法や、実施した効果、子ども達が指摘した危険ポイントの改善事例、本業への貢献に関する情報を収集する。</p>

ディスカッション① ぼうさい探検隊マップコンクールの応募促進について

ぼうさい探検隊マップコンクールを多くの人に知ってもらうにはどのような活動が効果的だと思いますか？
 また、実際に行っている取組や工夫している点、正っている点があれば教えてください。

東京代協 各支部に最低2件の目標を定め結果12件、今年度はイベント活用をし活動
 また各小学校を訪問し学年関係なく作品応募依頼している支部もある

沖縄代協 児童館をターゲットに声掛けしている(既存の児童館だけではなく新規の児童館(センター長が集まる会議を利用し訪問)にも過去に作成したマップを紹介し声掛け)
 結果6の児童館の指導者が賛同、提出につながった
 沖縄県のマップの改正もあり一旦県に提出しそこから東京に送られるので損保協会の数字に反映するのに時間がかかる

香川代協 目標は3団体、現時点で1団体(新代理店理事が小学校PTA会長で学校に提案、夏休みの1日を使い児童13名参加し計13マップ提出)
 現在香川県のCSRの予算で横断歩道で使用する黄色の旗を粗品として購入し各小学校に配りながらマップ提出を依頼する
 香川大学がマップ作りのアプリを開発している、このアプリを活用できないか

福井代協 苦戦している、1件は保険会社の社員さんから応募予定 10月に自治会、公民館で防災訓練があるのでその際に大人の会だが子供も絡めて提案したい

ディスカッション② ノウハウ・実施した効果、参加者の感想や良かったこと

マップを作成したあとの子供たちの反応や、マップの活用方法、マップの提出先(行政や自治会、学校、子ども園等)を教えてください。またマップ作成後に危険個所の改善事例があれば教えてください。

東京代協 実施後のこどもの気づきが大切、実際に災害にあったときにどんな方策があるのか大人も子どもも共に考えることこそ最大の効果

大分代協 児童クラブが4団体参加最初は出前講座のような流れで防災についてゲームやクイズをした後に探検隊もやろうという流れなので子供たちも楽しみながら学び探検する

香川代協 デジタルのアプリ化して欲しい

福井代協 特になし

沖縄代協

※具体的な方法やノウハウは実際に行ったものでなくても構いません。予想やアイデアの段階でも共有下さい。

※当シートについては後日取りまとめて全参加者に報告いたします。今後の活動にお役立てください。

Hグループ

熊本 植村敬子 埼玉 渋田 和歌山 山岡 大阪 大西
滋賀 田谷 三重 内山

議題 ぼうさい探検隊マップコンクール応募推進について

埼玉 澁田様 CSR 担当副会長

- ・理事を中心に、防災マップの提出・申し込みを依頼しているほか、保険会社に対してマップ作成依頼しているものの、結果に繋がって来ていない。
- ・参加者の感想は、数件出てきてるが具体的な感想がなく、今後、参加の子供たちに積極的に感想を聞いていくよう努めていきたい。

滋賀 田谷様

- ・理事で3名に応募してもらっている。
- 田谷様の甥っ子にタブレットで作成してもらった。県代協全体で行うのは難しく、小さな単位でまずは行っていきたい。
- ・開催の効果については、可視化することによって気付くこともあり良いものであることの再認識が出来た

和歌山 山岡様

- ・昨年、理事の息子がPTA会長で学校全体に伝えていただいた。
- 各支部に割り当てをしているが、なかなか進んでいかない。
- ・開催の効果→実際に参加した子供、さらには親についても楽しんで作成に参加しようで、そのことをうまく広げていきたい。

熊本 植村様

- ・今年は3マップの作成ができている。
- 組織委員会とともに防災マップの案内を保険会社に対して行い作成準備に繋がった。
調整池など、水害の後、詳しく作成。
理事のメンバーの作成のみであり、一般の会員に浸透させていくにはどうすべきか考えている。
- ・開催の効果、熊野水害の後に作成したの物については表彰してもらえ、身近にあった被害の為、皆さんに、より興味をもってもらえることができ、取組んでよかったと子供たちの感想がもらえ、やった良かった。
 - ・下準備で、保護者が消防署にアポイントを取っており、救助バイクで災害先に行く等、子供たちが楽しめる内容を盛り込んでいる。子供たちには楽しい経験をさせてあげるのがマ

ツブ作製に繋がっていくのではないか。